



## 【信仰と生き方が一致するクリスチャン】

本日聖書本文:アモス書 5章21-24節/暗唱聖句:マタイの福音書5章16節

説教者:鄭南哲牧師  
(Rev.Jung nam-chul)

愛する信仰の家族のみなさん！一週間もみんなお元気でしたか。新しい10月が始まりました。願わくは、10月中にも今日はアモス書を通して一緒に学んで行きたいと思えます。「アモス(意味:重荷を背負う)は紀元前8世紀に活動した神の預言者でした。アモスはエルサレムから南の方に16km離れたテコアというところの牧者のひとり(1:1)でした。アモスは預言者ホセアと同じ時代に活動していた預言者であり、ホセアが尽きない神の愛を宣布したならば、アモス預言者は神の義と正義を民に宣布した神の預言者でした。アモスは社会改革者ではありませんでしたが、ただ不義を行うイスラエルの民たちに神の怒りを伝えた者であります。それではアモス書をもっと正しく理解するためにアモス預言者が活動していた時代の歴史的な状況をまず知る必要があります。

### <1. アモス書の歴史的な状況>

アモスが活動した時期には、南ユダの王国の王ウジヤが、北イスラエルはヤロブアム2世の王が治めていた時でした。この時代はダビデとソロモンの時代に負けないほど平和と繁栄の時代でした。しかし、当時強国であったアラムという国は随時(ずいじ)北イスラエルのサマリアに上って来て攻撃し、よく苦しめたのですが、アラムの王ベン・ハダデ3世の時にアッシリヤによって滅亡されてしまいます。そのため、これ以上北イスラエルを脅かす周囲周りの者はいなくなったので、さらに北イスラエルは平和の時代を迎えられ、領土をさらに拡張することが出来ました(第二列王記14:28)。北イスラエルに戦争の脅威がなくなると、経済的にも盛んで繁栄されるようになりました。

しかし、北イスラエルの経済的繁栄は貧富(ひんぷ)の差が激しくなり、豊かな人がいれば、貧しいものも多くなりました。権力を持つ人がいれば、権力から疎外された階層(かいそう)が多く現れました。このような状況の中で、社会の正義が崩され、社会の悪があふれてしまいました。その事例がアモス書2章6節以下に記録されています。

**「主はこう言われる。「イスラエルの犯した三つのそむきのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らが金と引き換えに正しいものを売り、履き物一足のために貧しいものを売ったからだ。7彼らは弱い者の頭を地のちりに踏みつけ、貧しい者の道を曲げている。子とその父が同じ女のもとに通って、わたしの聖なる名を汚している。」**

これはどんな意味でしょうか。自称神を愛し、信じて礼拝する民だと言いながらも、実際日常生活の中では、その信仰と行いが全然違って人に無慈悲で、冷酷な仕打ちの生き方をする、まさに貪欲に満ちて、金や自分の利益、快樂の為なら、周りがどうなっても構わない偽善的な姿に神はアモス預言者を通して指摘して下さいます。

金になることなら、罪のない人でも罪のある者として扱い、靴一足で貧しいものの人権を踏みにじたり、たくさん持っている人が貧しい人の物を奪ったり、謙遜な者を迫害し、父と子が同じ女と関係を持つなど家庭の道徳と倫理まで乱れていることをばらしています。もともと抵当に入れる服は日が暮れる前までは返すようにと命じられていました(出エジプト22:26-27、申24:12-13)。なぜなら、昼間には服として使われますが、夜は毛布として使われていたので、そのように命じられたのです。しかし、これを無視して貧しい人たちが寒い中で、凍(こご)えて死んでも返さなかったのです。貧しい者の人権を踏みつけたのです。**6章4節以下には、彼らの富と贅沢についてこう記録しています。アモスが預言者として召された当時は貧富の差が激しく、社会正義が崩れ、家庭の道徳と倫理がなくなってしまう、当時の人々の行為は何の規定も、基準なく、ただお金さえ持っていればそれが正義であり、社会の法だと思われる無法の時代となってしまいました。**

### <2. 宗教的状况>

彼らのもっとも大きいな問題は経済的に豊かで、安定した故に、北イスラエルの民は、表では定期的に神に礼拝や捧げものを捧げながらも、実は、自分たちの日常生活の中では、まったく神様を頼らず、神様を離れて、自分たちの為に、目に見える様々な偶像を作り上げ、多くの偶像の神々をも拜んでいたわけです。それで、当時、偶像崇拜が激しくなりました。そうしながらも、神様にも定期的に礼拝も捧げましたが、それは、ただ礼拝の儀式だけが残され、それ以上過ぎませんでした。宗教儀式という形だけで、神様のための真心の愛と、信仰からの礼拝も捧げられなかったので、普通の生活の中でも、信仰の生き方も、隣人に対する愛の行いも、見えなくなり、ただ伝統と習慣による奉仕と礼拝しか続かないことに転落してしまいました。そのため、真の神を信じる信仰が人々の家庭や生活の現場に何の影響も変化も与える事ができませんでした。神様を愛し、信じると言いながら、我々の生き方や行動に我々の信仰が表されないなら、その信仰には問題がないはずがありません。

まとめてみると、アモスが預言者として召された当時も、神様を信じる信仰も墮落し、信仰生活も腐敗していた時代だったのが分かります。そういうわけで、神様はアモスを通して**5章21節以下**でこのように仰せられました。

**「21わたしはあなたがたの祭りを憎み、退ける。あなたがたのきよめの集会のときの香りも、わたしはかぎたくない。22たとえ、あなたがたが、全焼の捧げ物や、穀物(こくもつ)のささげ物をわたしにささげても、わたしはこれらを受け入れない。肥えた家畜の交わりのいけにえを献げても、わたしは目を留めない。23あなたがたの歌の騒(さわ)ぎを、わたしから遠ざけよ。あなたがたの琴の音(ね)を、わたしは聞きたくない。24公正(こうせい)を水のように、義を、絶えず流れる谷川の**

ように、流れさせよ。」

### <3. 今日の本文:アモス書をとおして神様が信じる民に望んでおられる事>

このような基本的理解をもとに今日の本文について調べてみましょう。アモス書5章21節で「わたしはあなたがたの祭りを憎み、退ける。あなたがたのきよめの集会のときの香りも、わたしはかぎたくない。」と言われました。

神様は心のない形だけや儀式、二重的な礼拝を喜ばれません。いくら、神様の前で、礼拝を捧げても、日常生活の中で、まったく神を知らず、信じない者と区別のない不信仰な生活と生き方を持っている偽善的な生活を神様は喜ばれないとのことでした。信仰の実際の生き方と行いが伴わない形だけの礼拝を神様は望まれないとのことでした。

22節で神様は「たとえ、あなたがたが、全焼の捧げ物や、穀物のささげ物をわたしにささげても、わたしはこれらを受け入れない。肥えた家畜の交わりのいけにえを献げても、わたしは目を留めない。」と言われました。

全焼のいけにえは言葉のとおり、動物を完全に燃やしてその香りでささげるいけにえであり、穀物の捧げ物は穀物をいけにえとして神にささげることですが、ここで言われる「全焼のいけにえや、穀物の捧げ物」は「礼拝する者が神様にささげるすべての礼拝と捧げ物」を意味します。なのに、神様はこれらのことすべて喜ばれないと言われているのです。ようするに、生活の中で実際には、神様の御心と御言葉通り従って行ってないのに、いくら定期的に礼拝を捧げ、高価ないけにえをささげても、神様は、目をとめて下さらないと語って下さっているのです。

### 23節では「あなたがたの歌の騒ぎを、わたしから遠ざけよ。あなたがたの琴の音(ね)を聞きたくない。」

ソロモンの聖殿が建築されて以降、いけにえの捧げ物とともに賛美隊の賛美も、神様にささげる一部となりました。いろんな楽器も使われました。なのに、神様はこのような賛美も受け取らないと言われました。生活の中で神様の愛と公儀を行わない、当時のイスラエルの民の形だけの賛美と礼拝を、神様は望んでおられなかったという意味です。

ヨーロッパを旅行したことのある方々は見られたと思いますが、中世時代のカトリック教会はとっても美しく雄壮(ゆうそう)でした。今もその中世の建築物がたくさん残っていてそれを表しています。ドイツのケルン教会堂は650年間建てた建物だそうです。イタリアのローマには700年間かかった教会堂もあるのだそうです。神様にささげると言われながら建てられたこの教会堂らはどれだけ美しく雄壮でしょうか。一度想像して見てください。美しいスタンドグラス、すばらしい彫刻(ちょうこく)象、聖歌隊の合唱(がっしょう)、聖職者の聖い礼服など、人々の想像を超えるほど目には美しいですね。

しかし、今日アモス書を通して、神様はそのような外見を好まれたのか、喜ばれたのかです。中世時代には男性も、女性もない中性の独特な声を作るために悩んだ末、変な聖歌隊を作り上げました。男性でありながら、男性の声でもなく、女性の声でもない15-18歳の声変わり以前の男の子達を集めさせて彼らを聖歌隊に使った事がありました。男性でありながら男性の声でもなく、かといって女性の声でもない独特な声を寄せ集めたと言って神様は喜んでくださったのでしょうか。

アモス書を含む様々な預言書を通して我々が誤解してはならない事は、だからといっていつも否定的で、批判的なクリスチャンになれという意味では決してないことを覚えましょう。そして、教会のすべての礼式、賛美、礼拝、聖礼典などすべて否定したり、批判してはいけません。このアモス書をとおして、我々は見分けるべき事は、今の時代も神様が本当に我々に望んでおられ、喜ばれる、正しい信仰の姿に対する分別力を持たなければならない事です。

教会のすべての礼式がいらないという意味では決してありません。神様が命じられた聖餐式と洗礼、そして御言葉と祈りと賛美、献金、奉仕、礼拝もすべて大切でしょう。神様が預言者たちを通して、我々にも語ってくださる事は何か。全ての奉仕と礼拝においてあなたの真心が、あなたの愛が込められているのか！ そうであるなら、住んでいる家庭の中で、関わっている町中、職場、社会の中で神を信じる信仰と愛をすべての行いと生き方の中で表しつつ、生きる者となることこそ、神が喜ばれる礼拝者の真の姿であり、神が喜んで受け入れて下される捧げものとなることが分かります。常に、謙遜に心を尽くし、命を尽くし、力を尽くして神様を信じ愛し礼拝を捧げる者は、他の人々をも自分のように愛し、神様の愛によって人々を憐れみ助け、分け与えることこそ、神様が喜ばれる真の礼拝と礼拝者の姿の核心である事を覚えなければなりません。

### <アモス書をとおして神様が願われる事>

神様がこのアモス書を通して、その時代の人々に、そしてこんにちの我々に望んでおられることを今日の本文の24節にこう書き記させて下さっています。

「公正(こうせい)を水のように、義を、絶えず流れる谷川のように、流れさせよ。」

これは言い換えると、「神を信じ礼拝する者は、不正と腐敗しているこの世の中、それと妥協せず、断って、公正が水のように流れさせて行う存在となり、正義がいつも乾かない川のように流れさせる模範的に存在とその役割をしなさい」という意味です。

どんなにいけにえをささげるのしても、実際神様の義(神が正しいとおっしゃっていること、神が喜ばれること)を行おうとする真実さがなければ、それは受け取らないと明確に語って下さっています。

先週のエレミヤ書で適用して解釈してみると、神の前に礼拝を捧げる前に、まず、神の正義、神の御言葉通り従って、守り行うことであるのだというアモスのメッセージは我々にも光として投げかけてくださっています。

ですから、すべての時代とその社会におけるキリスト教は、その時代に対する責任があります。我々はこの社会に対する責任があります。ですから、今我々が住んでいる町や社会と国のためにも関心を持って、執り成しをしつつ、祈る必要があります。ミカ書6章8節でも同じく、「主はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公正を行ない、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。(ミカ書6章8節)」

#### <4. キリスト教の真の役割と存在：①塩の役割と使命>

イエスは具体的に、マタイの福音書5章13節-16節で神を信じる者がこの世から離れている修道院のようなところで、祈禱院のようなところで祈りながら生きろと言わないで、この世の真ん中で生きながら、光と塩として生きなさいと言われました。正義の神様を信じている我々が果たして教会だけではなく、この世と社会においても光と塩の役割を果たしているのでしょうか。光と塩はどんな役割をするのかみなさんはよくご存知のはずです。

「あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩気(しおけ)をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。(マタイ6:13)」

みなさん！よく考えてみてください。塩は隠れることによって味があらわされます。塩は溶けてそのかたちがなくなることによって、本当の塩の味が出て、全ての味を調和させる役割をして、最高の味を作り上げます！また新鮮な状態を維持させ臭くならないように、本来のままを保存させられる役割をするではありませんか。かりに、塩が自分自身を続けて認められたくて自分だけを目立ちたい、表したがるなら、その役割を正しく果たせません。

イエスは隣人を助ける時に、苦しんでいる人の為、救済をする時に、右の手がやることを左手が知らないようにしなさいとおっしゃいました。

「あなたが施しをするときは、右の手がしていることを左の手に知られないようにしなさい。4あなたの施しが、隠れたところにあるようにするためです。そうすれば、隠れたところで、見ておられるあなたの父が、あなたに報いて下さいます。(マタイの福音書6章3-4節)」

これがまさに塩の役割だと信じます。しかし、私たちにこれは決して容易いことではありません。もしかすると、絶えず認められたい、自分の存在をアピールしたい人にとって、この世で一番難しいことのひとつかも知れません。

イエスの当時、パリサイ人たちがイエス様に叱られた理由もこれではないでしょうか。パリサイ人たちは律法をだれよりも熱心に守ろうとし、その姿を人々に見せたがりました。しかし、実際の心と行いがまったく違った偽善的で、二重的な彼らをイエス様が厳しく叱っておられたことが分かりました。

「23わざわざだ、偽善の律法学者、パリサイ人たち。おまへたちは、ミント、イノド、クミンなどの十分の一を納めているが、律法の中ではるかに重要なもの、正義とあわれみと誠実をおろそかにしている。これこそしなければならないことだ。

24目の見えない案内人たち。ブヨはこしてのぞくのに、らくだは飲み込んでいます。25わざわざだ、偽善の律法学者、パリサイ人。おまへたちは杯や皿の外側はきよめるが、内側は強欲(ごうよく)と放縦(ほうじゅう)で満ちている。26目の見えないパリサイ人。まず、杯の内側をきよめよ。そうすれば外側もきよくなる。27わざわざだ、偽善の律法学者、パリサイ人。おまへたちは白く塗った墓のようなものだ。その外側は美しく見えても、内側は、死人の骨やあらゆる汚れでいっぱいだ。28同じように、おまへたちも外側は人に正しく見えても、内側は偽善と不法でいっぱいだ。(マタイの福音書23章23-28節)」

パリサイ人たちは、彼らはだれよりも、本当に神の律法に熱心な人々でした。だれよりも熱心に礼拝を捧げ、祈り、だれよりも十分の一などの献金にも熱心でした。しかし、彼らは塩のように自分自身を隠さなければなりません。そうしたならば、彼らの生活は味がついていってもっと多くの良い影響を及ぼし、パリサイ人たちを通して周りの多くの人々が神の祝福を受けたと信じます。しかし、彼らはそうしませんでした。彼らは自分たちのやっていることを人々に表したがりました。自慢したがりました。それで町の真ん中で祈り、祈っているふりをするためにわざとみずぼらしくしました。だれよりも、自分たちが一番神を愛し、また愛され、神の前で一番正しく行っていたと思い込んで、人々に教えつつ、見せてましたが、結局パリサイ人たちは心は遠く神様から離れ、ただ人に見せるために演技をする偽善者の振り舞いをしていただけでした。彼らの内側のすべてを見通しておられたイエス様の評価は、「わざわざだ。偽善の律法学者、パリサイ人」といわれるほどのろわれた者になってしまいました。

愛する聖徒のみなさん！信仰のリーダー、霊的指導者は塩のような者になるべきです。初代教会には塩のような霊的な指導者たちが大勢いましたが、代表的な人が使徒の働きに表れていたバルナバ(慰めの人)のような人です。彼はまずしい人たちのために自分の全財産をささげるほどまで、献身的でしたが、自分が捧げたとあらわすのがいやだったので、教会の使徒たちのところにこっそりと捧げて帰ったと聖書は記されています。愛する信仰の家族のみなさん！神の御言葉通りに従って生きることより、私にはもっとむずかしいことがあります。それは神様の御言葉通り従って労苦したり、何かをささげ、献身的に

行った時、それをすぐ人々に表し、認められ、ほめられたがったり、それにふさわしい報いを受けたがる自分の心に打ち勝つことなのです。

そのような心がみなさんにも生じたときにはこのルカの福音書17章9節の御言葉によって自分自身によく聞かせ、自分の心を治められますようにおすすめします。「しもべが命じられたことをしたからといって、主人はそのしもべに感謝するでしょうか。」この御言葉を深くさぐってみれば、神様のために、神様の御言葉通り従ってただ自分が捧げ、行ったすべての奉仕や業ですから、人々が認めてくれなくてもかまわなくなると思います。つまり真のキリスト者は、塩のような行いを人になるのです。神に愛され、神を愛し信じる者たちはみな塩のような人でした。神様の御言葉とおりにしたがってすばらしく実を結びながらも、人々にそれをあらわせず、むしろ隠しながら、神様だけがご存じで、認めてくだされば、それで十分だと言える人こそ、この世の中、神の義と御心を成し、神の祝福を分かち合あわせせる、まことのキリストの弟子になれと信じます。

## <②光の役割と使命>

「あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。(マタイ5:14)」

しかしながらみなさん！先ほどの塩の役割と違って、光の役割は違います。塩は隠されるときこそ、自分のまことの役を果たすことになりませんが、むしろ、光は隠してはいけません！かえて、自分の存在をあらわさなければなりません。そういうわけで、イエス様は「明かりをともして升(ます)の下に置くものはいません。(5章15節)」と言われたのです。

私たちの問題は隠すべき時にはしきりに自分の事をあらわしたが、いざ表さなければいけない時には、勇気もなく、恥ずかしく思い自分を隠そうとします。右の手がやったことを左の手さえも知らないように隠すのが塩の役割であるならば、この世の中を生きながら、自分が神を信じる真のクリスチャンであることを人々に証しをし、表すことが光の役割です。しかし、私たちは自分がクリスチャンであることを、恥ずかしくて、勇気がなく堂々と人々に言い表せない場合がしばしばあります。

自分がイエスキリストを信じているキリスト者であることをこの世に表すこと、これがまさに光の役割であり、使命なのです。ところが、なぜ、多くの人々は特にクリスチャンたちは自分の存在をかくしたがるのでしょうか。いろいろな理由の中一番共通の理由の一つは自分がクリスチャンであることが世に知られるのに負担を感じているからです。自分がクリスチャンであることがまわりに知らされると生活は不自由になり、ほかの人たちにもし、変な宗教にはいつてしまった人かのような誤解を招いて、そういう目で見られるのが不安だからです。あるいは、まだそこまで神様に対する信仰の確信がない証拠かも知れません。

しかしみなさん！神様が一番悲しまれることではないでしょうか。自分の子供が親をはずかしいと思って、人々に親の存在、その親の子どもであることを、周りの友達に恥ずかしく思い、隠そうとしていることを見た親の心はどうなると思いますか。神様も同じく神様の子供たちが自分を神様の子供であることを堂々と言葉や行動であらわせず、むしろ隠そうとすることこそ、神様を苦しませ、悲しませることでしょう。

生きておられる全能の父なる神様に対する絶対信頼とイエスキリストを信じる全ての者に与えられる罪赦しと救いの確信、そして、今も我らと共におられ、信じ頼り全ての人々に神の平安と慰め、励まし、満たして下さる聖霊の神の恵みを実際日々体験するならば、この神の祝福と愛を、その恵みを分かち合うことをやらざるを得ません。

イエス様もあなたがたが世の人々の前でわたしを知らないとする最後の日に神様のみまえで私もあなたがたを知らないとすると言われたのです。

「だれでも、このような姦淫と罪の時代にあつて、わたしとわたしのことばを恥じるなら、人の子も、父の栄光を帯(お)びて聖なる御使いたちとともに来るとき、その人を恥じます。」(マルコの福音書8章38節)

「だれでも、わたしとわたしのことばを恥じるなら、人の子もまた、自分と父と聖なる御使いの栄光を帯(あ)びて来るとき、その人を恥じます。(ルカの福音書9章26節)」、「私はこのような苦しみに会っています。しかし、それを恥とは思っていません。なぜなら、私は自分が信じて来た方をよく知っており、また、その方は私がお任せしたものを、かの日まで守ることがおできになると確信しているからです。(第二テモテへの手紙1章12節)」、「キリスト者として苦しみを受けるのなら、恥じることはありません。かえて、このことのゆえに神をあがめなさい。(第一ペテロの手紙4章16節)」

まことのクリスチャンの生き方はだれにでも、隠さない者になります。裏がありません。そして全部表して生きる者です。それが光のような者になることです。いつも隠し、嘘つきで、二重的で、正直でない人は光のような者として生きる事ができません。それは教会の中でも、家でも、社会の中でもこのようなクリスチャンの生き方と証しは変わりありません。不義で、人をたまし、偽善が満ちあふれるこの時代に、だからこそ、私たちは堂々と正義と愛の神を信じるクリスチャンであることをあらわし、この世の人々より正直でただしく、純潔と愛を保って証しをし、生活していくべきではないでしょうか。その時、私たちはさらに神の祝福と恵みを頂き、分かち合って広げて行けると信じます。始まったこの10月にも、生きておられる神の御前で共に塩のようなクリスチャン、光のようなクリスチャンとして行い歩んで進みましょう。

明らかな事実は私たちがクリスチャンであることを表しながら、それにふさわしく行い、生活しようとする時、私たちは自分も知らないうちに神の恵みをさらに経験し、人々に励ましと力を与える存在になっていくと信じます。

クリスチャンが苦難に直面した時二つの反応があらわれます。その苦難や試練により信仰を失われか、苦難の為新たに神

様と出会い、深く神の恵みを体験するきっかけになるかです。人生というのは、自身に起こった10%の出来事とその起こった出来事に対する90%の反応と態度で構成されるという話があります。ある意味で、今年初めてのコロナウイルスの経験も我らの人生の10%を占めているだけで、残り90%はその出来事に対する我らの態度と反応によって人生が左右されて行く信じます。人生に突然襲って来る苦難の為、神様に、周り人々のせいにしながら恨みや不平を表す人々もいれば、苦難の中で神様からの自分の新しい使命と役割を見出し、他の人々を生かせながら生きる人々もいます。

その代表的な一人の人物が、新型コロナウイルス確定患者の存在を世に初めて伝えた中国武漢市の中心病院の医師李文亮(リ・ウォンリャン)さんでした。実は彼はキリストを真実に信じていたクリスチャンでした。新型コロナウイルス感染症の存在や危険性を初めて外部に伝えたものの、中国政府はそれを隠蔽しようとし、社会的混乱が憂慮されることなどを理由に、感染症の発生と拡散の事実を隠し、矮小化することのみに汲々としてきました。公安当局は同氏をデマ流布(るふ)者として目をつけ、出頭させて「虚偽の情報を広げ流布し、社会秩序を乱した」という内容の反省文を書かせるなど沈黙することをおしつけました。李文亮さんの警告が現実となるまでに、それほど長くはかからなかったのです。中国政府が「人から人への感染の可能性は低い」として事態の縮小(しゅくしょう)化にのみ力を注いでいる間にも、感染症は人を通じて急速に広がってしまい、結局、中国政府は1月21日、新型コロナの「人から人への伝染」を認め、2日後には武漢地域の封鎖(ふうさ)を命じましたが、ウイルスが中国全域に止まらず、すでに全世界に広がった後だったのです。発生初期に情報を全面的に公開せず、縮小化・隠蔽に汲々としたため、感染症抑制(よくせい)の「ゴールデンタイム」を逸してしまったのだ。コロナの原因はともなくしてこの責任だけは免れなさそうです。

しかし、李文亮さんは、彼は色々な弾圧を受けながらも、自分の立場を離れず患者の診療し続けているうちに彼も感染され、2月7日未明召されるまで病院で患者の為働き、命の灯が消されているうちにも、中国と世界の人々にこのコロナの危険性を伝えた彼は、苦難の中クリスチャン医師として堂々と聖書の御言葉通り、偽りと妥協せず、真実を語り、公正を姿勢を堅持しながら、命を失う最後まで神様からの自分に与えられている使命として命を懸けて職分を全うしたその姿は、我ら共に見習うべきであり、是非彼のそのクリスチャンとしての塩と光の存在として生きていたその生き方を是非覚えて我らもそのように神の前で歩んでいきたいと願います。

## <まとめ>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！回りからではなく、他の人々に願うのではなく、まず自分から新たに変わって行きましょう。イエスキリストを信じているクリスチャンが世の人々と変わりがなければ、間違いなくその時代は必ず墮落してしまいました。しかし、その時代のクリスチャンたちが、この世の臭くなっている暗闇の所にキリストの愛と真理御言葉を持って照らし行った時代はかならず、その社会も、家庭も明るくなり、聖書的に改革され健全な社会、家庭として変わって来ました。私たちがまず公正と公義を愛する神様を信じるクリスチャンとしてこの世の偽りと不義と妥協しないように、いつも神と家族やすべての人々の前でも偽りなく、隠すことのない生き方で今月も行って生きるみなさんとなりますようにお祈り申し上げます。神を信じるクリスチャンたちはこの社会と世界の暗いところを防ぐ塩の役割と使命が与えられているこの世の光の存在です。暗いところにキリストの愛と真理の光を照らす存在、神の愛と正義、公正、平和の道具として10月中にも教会で、家庭で、職場で、すべての生活の現場で大いに用いられる我らのクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祝福し、祈ります。アーメン！

